

「私はこれが好き」は生きる力になる

生きてるって いいものよ

子どもの頃、身体が弱く、体質改善のために母が土浦市のモダンバレエ教室に通わせてくれ、そこがバレエ人生のスタートとなりました。そして、通訳をしている親族の影響で海外を身近に感じ、「いつか海外で踊りたい」と夢を抱いていました。

高校卒業と同時に水戸芸術館専属劇団ACMの劇団員に合格。舞台俳優として2年間活動後、海外へ。カナダで1年、メキシコで10年、所属唯一の外国籍ダンサーとして舞台に立ち続けました。帰国後に知り合った方から「子どもにバレエを習わせたい」と依頼を受け、「まみバレエ&コンテンポラリーダンススクール」を起業。稽古場を探していたところ、みのに出会いました。

5歳から習い始めたモダンバレエを活かし、カナダ、メキシコで10年以上コンテンポラリーダンスのメンバーとして活躍後、帰国。現在はみものほかに県内で「まみバレエ&コンテンポラリーダンススクール」を主宰する、石岡市にお住まいの矢口まみさんにインタビューします。



まみバレエ&コンテンポラリーダンススクール主宰

や ぐち
矢口まみさん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ

No.215

「稽古場としての機能はもちろんのこと、駐車場から建物までのアプローチがとにかく素敵で、そして何より緑の芝生。小さい子のクラスは木のぼり大会することもありますし、築山で『だるまさん転んだ』ならぬ『バレリーナ転んだ』をやって盛り上がっています」。以来15年、みものを拠点に活動。当時は幼稚園児だった子たちも、今や頼もしいお姉さんたちに成長しました。スクールの拠点も、みものほかに玉里クラス、つくばみらいクラスにも広がっています。「子どもが大好きで、本当は教員免許を取りたいぐらいです」とまみ先生。特に幼稚園クラスでは「バレエって楽しいね」と感じてもらえるように愛情を注ぎ、「バレエの先生というより幼稚園の先生に近いかもしれないね」と笑います。発表会は年1回、4月下旬に小美玉市とつくばみ

らい市のスクール合同で開催。発表会までの半年間は新規の生徒募集をしませんが、それ以外の期間はいつでも受け入れしています。AIが台頭してきた現代社会を生き抜いていくのは大変なこと。まみ先生は「小さい子たちに『生きてるっていいものよ』と伝えたい」と語ります。「身体を動かすこともその一つ。それが絵を描くことでも、料理でも、何でもOK。私はこれが大好き！というものが一つあると、生きていく力になります。どん底に落ちたときにそれが助けてくれるから。私にとってはそれがバレエでした」。

海外で怖い思いをたくさん経験しても、好きなバレエを手放すことは無かったまみ先生。「今は何があっても大丈夫だと思えます」と語る眼差しから、ピンチをチャンスに変えて生き抜いてきたたくましさを感じました。